

朝の光に勇気凛々

KIMASSI

KANAZAWA

KANAZAWA CENTER QUARTERLY NEWS

2025年11月

金沢問屋センターニュース

Vol.153
November

report 組合主催イベント

工芸体験工房&金沢美大見学ツアー
ツエーゲン金沢 試合観戦

バトンエッセー

わが社をPR

青年部会活動報告

うちのキラリンさん

令和7年度 卸売業組織力強化支援事業

事務局だより



事務局だより

INFORMATION

7月

- 24日 新入社員フォローアップ研修 5社10名参加
- 25日 理事会
 - 1. 総務委員会より
 - (1) 備品購入について
 - (2) 景況調査について
 - 2. 組合運営委員会より
 - (1) レストランスペース一部改修案について
 - (2) 大規模修繕補完工事について
 - (3) 庭園灯修繕工事について
 - 3. 厚生委員会より
 - (1) サッカー観戦について
 - (2) 新入社員フォローアップ研修について
 - 4. 街力委員会より
 - (1) 金沢市卸売業組織力強化支援事業について
 - (2) イベント事業について
 - (3) 働き方改革推進支援助成金(団体推進コース)について
 - 5. 青年部会より
 - (1) 7月定例会について
 - (2) 9月定例会について

- 4. 街力委員会より
 - (1) 金沢市卸売業組織力強化支援事業について
 - (2) イベント事業について
 - (3) 働き方改革推進支援助成金(団体推進コース)について
- 5. 青年部会より
 - (1) 7月定例会について
 - (2) 9月定例会について

- 15日 一斉清掃 111社134名参加
- 24日 (協)山梨県流通センター様 来訪



11名の皆様が当組合へ視察に来られた。

10月

- 6日 理事会
 - 1. 総務委員会より
 - (1) 管理人契約の更新と職員の採用について
 - 2. 組合運営委員会より
 - (1) 町内一斉清掃について
 - (2) 不燃物有料回収について
 - (3) ホワイ工漏水について
 - (4) 駐車場利用料金について
 - (5) レストランスペースの活用案について
 - 3. 厚生委員会より
 - (1) インフルエンザ予防接種について
 - (2) サッカー観戦について
 - (3) ボウリング大会について
 - 4. 街力委員会より
 - (1) 金沢市卸売業組織力強化支援事業について
 - (2) 青年部会10月定例会の共催について
 - 5. 間屋町交通安全対策協議会より
 - (1) 違法駐車の取り締まりについて
 - 6. 青年部会より
 - (1) 9月定例会について
 - (2) 10月定例会について
 - 7. 事務局より
 - (1) 改修及び修繕について
 - (2) 不燃物有料回収 19社参加

8月

- 4日～6日 付加健診・簡易ドック
日帰り人間ドック 83名受診
- 18日～20日 健康診断 356名受診

9月

- 3日 理事会
 - 1. 総務委員会より
 - (1) 土地の移動について
 - (2) 景況調査の集計結果について
 - 2. 組合運営委員会より
 - (1) 町内一斉清掃について
 - (2) 不燃物有料回収について
 - (3) 防水補完工事について
 - (4) 共同駐車場及び会館水防対策について
 - 3. 厚生委員会より
 - (1) サッカー観戦について

編集後記

協同組合金沢問屋センターの広報誌が国会図書館に収蔵されていると、街力委員会で話題になりました。国会図書館では国内で発刊された出版物は原則全て納本の対象になっていて、企業や団体が発行する広報誌も含まれているとのこと。確かに学生時代に国会図書館のことを知った私は、『全ての出版物』というところで、本当にそんなことができるのだろうかと想像力が追いつきません

した。しかしこの広報誌の収蔵を通じて、概ね全ての出版物が収められることについて、現実味を持って再認識することができました。

「金沢問屋センターの活動の記録を伝える広報誌が、未来の見知らぬ人の目に触れて研究の対象になるかもしれない」なんて想像しながら、これからも街の力を発信してまいります。

(Y.O)

組合主催のイベントで 夏の思い出作りました！

1 工芸体験工房＆金沢美大見学ツアーアー

8月10日(日)、「工芸体験工房&金沢美大見学ツアー」を開催しました。例年行つてゐる美大生によるワークシヨップをさらに専門的かつ充実した内容でお届けするため、会場を金沢美術工芸大学の新キヤンパスへ移しての実施となりました。これによつて本格的な設備を使った多彩な工芸体験が可能となり、参加者にとつて特別な学びの場となりました。

当団は、陶磁・彫金鍛金・鋳金・染織の4つの分野でワークシヨップを開催、それぞれに子どもの部と大人の部を設けて合計8つのコースを用意しました。例えば、陶磁では絵付けを楽しみ、彫金鍛金では金属の食器制作など、高度な技術や道具を用いて創作の喜びを味わう時間となりました。年齢を問わず、各コースで熱心に創作に励む姿が見られ、作品づくりに没頭する表情や親子で協力して仕上げる様子が印象的でした。

また、新しい美大キヤンパスの見学も行いました。普段は目にすることのない最新鋭の設備や規模の大きな工作機器、専門の工房などをじっくりと見学でき、子どもも大人も新鮮な驚きと感動の声を上げていました。

参加者からは「また参加したい」「じつくり制作体験ができる楽しかった」といった感想が多数集まり、イベント終了後も交流が続くほどの盛り上がりとなりました。来年度も金沢美大キヤンパスで、より魅力的なワークシヨップを実施したいと考えています。今後も多くの方々に楽しんで頂けるよう計画していきます。



2 ツ 金沢美大 新キャンパスを見学!



最新鋭の設備を備えたアトリエを見学。



©ZWEIGEN

厚生委員会の企画として、昨年初めて実施した地元のサッカーチーム「ツエーゲン金沢」の試合観戦。昨年は惜しくも敗戦でしたが、多くの好評を頂いたので2年連続で実施することとなり、大人7名、小中高校生6名が応援に駆けつけました。

観戦したのは金沢「一ゴーカ」レースタジアムで行われた香川県「カマタマーレ讃岐」との試合で、9月27日(土)午後6時にキックオフ。前半は0-0で折り返しましたが、後半に入るとツエーゲン金沢の選手たちが果敢に攻め上がり、得点を重ねました。ファンの温かい拍手と歓声がスタジアムを包み、1点先取されながらも追いつき、その後勝ち越し点を奪つて見事勝利！その瞬間は観客全員が立ち上がり歓喜の声をあげるなど、試合の臨場感を存分に味わいました。まさにスポーツの醍醐味を感じたひとときで、今後もこのような機会を通じて地域に活気が生まれ、絆が深まるこ

この原稿の執筆時点ではチームは7位と昇格圏内に迫る好成績を維持しています。皆さんがこの記事を読まれる頃には、一丸となつて勝ち上がっているツエーゲン金沢の姿を笑顔で語り合えることと確信しています。

わが社をPR

川上産業 株式会社 変化を受け入れながら成長

肥料の卸売りで創業し、今はセメントをメインに建設関係の材料を扱っています。耐震補強工事、橋やトンネルなどの補修工事も行っていますが、こういった特殊な工事には知識が必要です。お客様としても極力外注に出したいのが本音で、商談で「施工までしてくれるなら」という話を頂くことが多くなり、始めました。

「これまでのよう」という話を聞くことが多くなりました。 インフラの老朽化などは社会的な課題であり、仕事の依頼は多いのですが、運送、建設業界全体の人手不足が不安材料です。 うちの場合は物流のウエイトが大きいので、例えば能登に行く時は、羽咋、七尾と順に荷物を下ろして何かを積んで帰るなど、一回で効率的な配達を工夫しています。最近はお客様にも理解して頂けるようになり、社会全体の意識が変わってきたと感じています。



代表取締役
社長
茨木 陽介

能登の復興を 支えていきたい



被災地に水を届けたりするなかで、防災用の電源の必要性を痛感。大容量で持ち運び可能な蓄電池を扱い始めた。

ソアル工場まで走り、そこから道路を一走りして気が付いた。直しながら奥能登へと材料を持っていけるようにしていったのですが、道だけでなく“あって当たり前”的のモノがないといかに困るか、再認識しました。

能登地域は人口も減っていますが、それでもそこに人が暮らし、能登が好きと言う方がいらっしゃいます。元の暮らしに戻れるように、当社も材料などの面で支えられたらと思っています。

世の中が変わっていく中で、当社も肥料の卸から始まり施設まで行うなど適応してきました。これからも、ますます激しくなるであろう変化を受け入れながら対応していきたい。今後の目標は、働いてくれている社員が退職する時に「ここで働いてよかったです」と思ってもらえる会社にすることです。

プログラミングで気づいた
地域の魅力と人

「ナイス！」という掛け声が耳に飛び込んできた。私も続けて「ナイス！」と声を上げる。そこは、私が今通った道だった。そこに落ちていたゴミに気づけなかった自分に、ふと恥ずかしさを覚えた瞬間だった。

皆さんには「プロギング」という活動をご存じだろうか。プロギングとは、ジョギングをしながらゴミ拾いを行うスウェーデン発祥のフィットネスである。運動しながら地域の美化にも貢献できるという一石二鳥のアクティビティとして注目を集めている。先ほどの「ナイス！」という掛け声は、「ゴミを拾った人に贈る感謝と称賛の言葉だ。

私は、弊社が日々市とウエルビーベンディングな社会の実現に関する連携協定を結んだことをきっかけに、のいちプロギングに参加するようになった。7月のイベントでは運動不足解消も兼ねて3キロコースを選択。北國街道宿場町周辺を歩きながら猫面瓦を探すというユニークなミッションに挑みつつ、ゴミ拾いに励んだ。最初は屋根にある猫面瓦探しに夢中に

く災厄から家の
のである。明
この地域では
防ぐために猫
たという。猫
ンがあり、見
た。当時の人
背景に、猫が
という実用性
巡らせた。
ゴール後、
ったGPSア
「ほれた。こ
ことで、楽し
むことができ
拾ったゴミの
と同時に、地
感を味わうこ
「ジョギング
力発見」とい
掃活動にとど
がりを深める
市市の新たな
たこの1日は
体験となつた

を守るために設置されたもの、蚕の天敵であるネズミを防ぐ治時代に養蚕が盛んだった時の顔を模した瓦が用いられ、面瓦にはさまざまなデザインで書いて飽きることがなかつた。人々が鬼ではなく猫を選んだネズミ退治に役立つていたのがあったのだろうと想像を歩いた軌跡が椅子の形に左一右一を確認し思わず笑みがこぼれた。多くの仕掛けがあるみながら地域美化に取り組みたのは新鮮だった。さらに量を目の当たりにして驚くとができた。



富木医療器株式会社
代表取締役社長

荒井 博史

なり、道路に落ちて「ナギ」を拾ひ、「ナギ」をすつかつ持ててござ。」カ「ナギ」を手から

